

18/3/8 名古屋市議会経済水道委員会（名古屋市民オンブズマンによる、自動文字起こしアプリを使った文字起こし+修正）

委員長 佐藤あつし（減税・中区）

では次に観光文化交流局関係であります。

この場合ご報告いたします。市政記者クラブ所属の報道機関より頭撮りの申し出がございましたのでこれをお許しいたします。

それでは議事の都合もございまして、撮影関係者におかれましては速やかに退室もしくは所定の撮影場所に移動していただきますようご協力をお願いいたします。

それでは、これより本日の案件に入ります。

この場合当局より発言を求めておられるのでお許しをいたします。

渡辺観光文化交流局長。

今回、観光文化交流局におきましてご審議をお願いいたします。

平成 30 年度当初予算及び関連議案は、第 1 号議案、平成 30 年度名古屋市一般会計予算のうち、観光文化交流局関係分及び第 7 号議案、平成 30 年度名古屋市の名古屋城天守閣特別会計の 2 件でございます。

平成 30 年度予算編成につきましては、昨年度策定いたしました名古屋魅力向上発信戦略に基づき、名古屋の魅力を戦略的、統一的に情報発信するとともに、名古屋城をはじめとした歴史的資源を活用した魅力の向上及び観光魅力の向上及び観光国際交流、MICE の推進、文化の振興による多様な交流の促進に取り組んでまいります。

よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

委員長 佐藤あつし（減税・中区）

それでは観光文化交流局関係の第 1 号議案関係分及び第 7 号議案を一括議題に供し、ご質疑をお許しいたします。

浅井正仁（自民・中川区）

そしたら名古屋城のバリアフリーについて聞かせていただきたいと思います。前回か前々回の委員会の中で、今はバリアフリーに対して副市長をトップとして、各局、局長レベルでプロジェクトチームをつくるというお話がありましたけれども、現時点で何回行って、どういうお話し合いがされておるのか、少し教えていただきたいと思います。

名古屋城事業調整担当主幹中野主幹

今、浅井委員お尋ねの件でございますが、バリアフリーに対する検討会議でございますが、昨年 12 月 28 日に庁内で掘場副市長をトップといたしましたプロジェクトチーム

を立ち上げました。これまでに、課長級の会議を 3 回、局長級の会議を 2 回開催しておるところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）

今言われたのは堀場副市長。課長がやっとなですか。

名古屋城事業調整中野主幹

課長級の会議では各局の課長級の方に集まっていたいております。

堀場副市長を議長とした場合につきましては局長級の会議で開催をしておるところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）

局長級のメンバーお名前を教えてください。

事業調整担当中野主幹

堀場副市長をトップとしました検討会議につきましては、まず堀場副市長を議長、それから広沢副市長を副議長。関係局としまして、市民経済局長。健康福祉局長。子ども青少年局長。緑政土木局長。教育委員会事務局長。交通局長、そして観光文化交流局長の計 7 局でございます。

浅井正仁（自民・中川区）

そうすると各局の思いというものはあると思うんですけども、だいたいいいですからどんな意見が出されたのか、各局別に教えてください。

名古屋城事業調整担当中野主幹

それでは各局からいただきました意見としまして、まず市民経済局からは、史実通りの階段を車いすで円滑に上がれる技術の知見としましては、現在工業研究所では持ち合わせていないということですか、新技術を開発している企業は不明であるため新技術に関する企業等の調査を行った方が良いという意見をいただきました。

続きまして健康福祉局からは、高齢者団体や障害者団体からの情報収集は必須である。

ということや、高齢者や障害のある方からも含めた様々な方にとって、バリアフリーは必要不可欠であるといった意見を伺いました。

続きまして、子ども青少年局からは、子育て世代からのヒアリングした方が良いという意見をいただいたところでございます。

続きまして、緑政土木局からでございますが、基本的にはバリアフリー法や条例福祉都市環境整備指針等を遵守するということが必要であるという意見をいただいております。

続きまして、教育委員会事務局からでございますが、他城郭の状況ですとか有識者等の意見をまとめてどのように判断するか検討する必要があるといったご意見をいただいております。

最後に、交通局でございますが、交通局からは、地下鉄につきましては、ホームから地上までエレベーターにより移動できるルートを確保しているといったご意見と、市バスにつきましては、市バス車両については、バリアフリー対応のノンステップバスとしてというバリアフリーとしては対策済みであるといった意見をいただいたところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）

それ今のやつをすいません、書面でちょこっといただきたいと思います。資料でごめんなさい。

名古屋城事業調整担当中野主幹。

それ今発言させていただきました資料をまとめました結果を資料として提出させていただきます。

浅井正仁（自民・中川区）

今確かその設置のときに、3月までに結論を出すと言われていましたが、もう残すところ3週間なんですけども、3月のどの時点で言うなら3月の何日なのか。教えていただきたいと思います。

名古屋城事業調整担当中野主幹

はい、委員御指摘のとおり、私どもとしましても3月までに結論を出すという方向で進めていきましたところでございますが、現在いろいろな各局からもご意見いただいたことも踏まえまして、現在、年度内で方針を出す方向で努力してまいりましたが、現在本市が考えております複数案というものがございます。

複数案を、今後、障害者団体の皆様や有識者に対しましてご意見を伺った上で最終的に方針を決定していきたいと考えておりますことから、こういったことを踏まえすと、現時点では年度内に方針を決定するまでには非常に難しいと考えておるところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）：3月中というのがいついつまで伸びるんでしょうか。

名古屋城事業調整担当中野主幹

3月までに努力はしておりますが、今後できるだけ早く決定していきたいと考えてお

ります。3月までに、つまり方針が決まらなくてもできる限り速やかに決定していきたいというふうに現時点では考えております。

浅井正仁（自民・中川区）

そうするとこのバリアフリーのね。答えというものが、出ないとなると、なんだ、ごめんなさい。木造化の完成時期というのは、おくれるのかどうか。

西野所長

バリアフリーについて、3月までに結論を出していく予定で進めておりました若干今もう少し時間かかるんじゃないかということでございますけれども、これにつきまして、工程の影響ということを考えますと、遅くとも5月中には決定する必要があると、そういうふう考えているところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）

そこ5月中には出さなければ、竣工に間に合わないということではよろしいでしょうか。

名古屋城所長 西野所長

5月中に出さないとですねその後の文化庁の許可をとっていくということへの影響が考えられますので改めて工程を練り直さなきゃいけないという、そういうふうな趣旨でございます。

浅井正仁（自民・中川区）

それからもう一つ、先ほど複数案と言われたんですけども、複数案というのは何を意味されておるのか。教えてください。

名古屋城事業調整担当主幹中野主幹

複数案でございますが、現時点では今エレベーターを設置しない場合、そしてエレベーターを設置する場合という二つの案の案で検討しております。

具体的に申しますと、エレベーターを設置する場合につきましても、外部のエレベーターを設置する場合、そして内部のエレベーターを設置する場合、今、現時点では二つを検討しておりますが、今のところ、エレベーターの設置の可否も含めて決まっておるところではございません。

浅井正仁（自民・中川区）

それを5月までに出すということではよろしいでしょうか。

名古屋城事業調整担当中野主幹

委員ご指摘のとおりでございます。

浅井正仁（自民・中川区）

例えば今の堀場副市長から、初め各局長のプロジェクトチーム。が一定の答えを出したと。しかしながら、市長との見解が違った場合はこれはどういう形になるのでしょうか。

名古屋城所長 西野所長

市長の指示により、庁内会議が設立されておりますので、庁内会議での結果をですね持ってですね市長に報告し、市長と相談をしてですね。決めていくということですが、その過程の中では、有識者のですね、意見をしっかり聞いた上でそういう有識者の会議など開いてですねそういった結果に基づきながら、最終的に市としての判断をしていくとそういうふう考えております。

委員長浅井委員 浅井正仁（自民・中川区）

有識者の方の意見を聞くということなんですけども。その有識者に問いかける質問、経緯がありますよね。それはプロジェクトチームの答えを受けて有識者に投げかけるということでもよろしいですか。

西野所長

そのように考えております。

浅井正仁（自民・中川区）

するとそのあと有識者の方が何回か会合を持つんですか。

名古屋城所長 西野所長

回数はまだはっきり決まって決めておりませんが時間もそあるわけでもございませんので1回ないし2回ぐらいではないかなと思っております。

浅井正仁（自民・中川区）

今3月であと2ヶ月ですよ。まだ副市長を初めそのプロジェクトチームの答えが出てないんでそのあとで有識者が会合を持って有識者の答えを持って市長にの意見を聞いて、市長が判断するという形になるんですよ。それが5月のいつかわかんないんですけど、5月中ということでもいいんですよ。

名古屋城所長：西野所長。

はい。今、ご指摘のとおりでございますがしてそういう意見をまとめましたらまた議会の方にもですねご報告申し上げたいというふうに思っております。

浅井正仁（自民・中川区）

この間の議会でも市長は新しい技術が出てくる。という言葉をよく使うんですけども。30年度予算に計上したこの名古屋城バリアフリー検討調査というのがそれなんですか。

名古屋城事業調整中野主幹。

はい。30年度の予算で計上させていただきました名古屋城バリアフリー検討調査、その中で新しい技術も含めて検討していきたいと考えております。

浅井正仁（自民・中川区）新しい技術を検討する。

今現段階でエレベーターするかしないかしかない。

新しい技術っていうのは、名古屋市が新しくそのエレベーターや昇降機だね。

何か新しく開発するという考えでいいんですか。

名古屋城事業調整担当中野主幹。

失礼しました。

委員御指摘のとおりではございませんで、あくまでも研究開発あるいは実用化につきましては、民間さんの主体でお願いしたいと考えております。

名古屋市としましては、今回は実現、実現性ですとか課題につきまして調査研究を行うというところまでを考えておりますので、その結果を踏まえまして実現性が高い場合につきましては、企業等に実用化を働きかけていきたいとそうように考えておるところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）

いまいち僕わかんないんですけど。今の答えで。民間さんに調査をするというのが1000万。昇降機等して、そういうことです。

名古屋城事業調整担当主幹 中野主幹

調査も含めて1000万でございますが、説明不足でございましたので、若干補足させていただきます。まず、その内訳でございますが、木造復元天守の昇降ですとか段差を円滑にするための技術の調査検討につきましては、まずハード対策としまして、木造復元天守の昇降に関します。バリアフリーに繋がります技術を有する企業あるいは研究者の調査を行うというところがまず一点ございます。その調査の結果に基づきまして、階段の昇降が可能な技術研究開発に、取り組んでおります企業あるいは研究者のかたに開発の

実現性や課題等につきまして調査研究を依頼していきたいということを考えておりますもう一点でございますが、ソフト対策としまして、市長が言っております、人力でのサポート。あるいは補助具を使って階段を昇降するといった研究や実際行っております企業あるいは研究者の調査を行うという点もございます。

その調査結果に基づきまして、階段の昇降に関します知見を有する企業ですとか研究者の方に木造復元天守での実現の可能性あるいは課題につきまして調査研究を依頼していきたいと、そのような大きく二つ考えておるところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）

新しい昇降機を開発してくれそうな企業、あるいは学者さん。現時点で見えるんですか。

名古屋城事業調整担当主幹 中野主幹。

はい、現時点でございますが、市長はよく記者会見でも言われます。

車いす型ロボット、これを開発さらに開発していった木造復元天守の階段を車いす型ロボットで上がってきている研究をされている大学の研究者が見えます。

そういったところすとか、補助具、階段を補助具を使って上がっていけるという補助具の開発をしている研究者も、おみえになりますのでそういうところに調査を行っていただきたいと考えております。

浅井正仁（自民・中川区）

そうすると例えばね、その企業は今の僕ならロボット型車椅子開発できそうだって言ったときに、名古屋市はその開発費用を払うんですか。

名古屋城事業調整担当中野主幹

まだ現時点では不明でございますがその可能性を含めて、まず調査して、それからその実現性等を木造を受け天守も階段を昇降できるかどうか、それをまず見きわめていきたいと、まずそこからスタートしていきたいと考えております。

浅井正仁（自民・中川区）

ちょっと頭がこんがらがってましてこれでとりあえず。

西川ひさし（自民・昭和区）

すいません全然わかりません。なんかドラえもんのポケットの中から何かロボット出てくるのかなと思っちゃうし、トランスフォーマーみたいな話もし、それが3月末までに答えを出すって言って、それが伸びて五月中までにそんなことが果たしてできるのか。どうか、あともう一つ、複数案の中に、その前にソフト対策で人力ってこれおんぶ

ってこと？背負子背負って。背負子背負っておんぶ（名市大）っていうのは市長さんが本会議場かどっかで喋ったことはまだ案の中にあるってことですか。俺もうちょっと真面目にやってもらうのかなと思ったんだけど、ただ、わからせんわこれ 5 月中までとろ、果たして複数案って聞いたって今、夢物語みたいな話聞いててねみんな納得できるかたみえました今。わかんないでしょみんな同じでしょ。これ本当に複数案なんてそんな程度の今段階なの。教えて確認

名古屋城事業調整担当中野主幹

大変失礼しました。

複数案につきましては、まずエレベーターを設置しないという検討もございますが、設置するという検討もございます。

ただしですねエレベーターを設置いたしましても、例えばエレベーターを設置することになったとしても、エレベーターが到達する階にはまず制限がございます。

そういった意味でソフト対策ですとかハード対策を合わせてさらに、昇降できる技術あるいは、技術のハードあるいはソフト。を検討していきたいということがまず一つございます。それから、

西川ひさし（自民・昭和区）

待って、答えてよ、途中じゃない。

名古屋城事業調整担当主幹 中野主幹

はいそれから委員御指摘の人力でのサポートの件でございますが、現実的には背負子というものではございません。例えば今、先ほど申しました補助具を使って階段の昇降が困難な方にそういった器具を装着して階段が上れるようにと技術の開発されておりますので、そういったところを調査していきたいという意味でございます。

西川ひさし（自民・昭和区）

もう一つね、今の答弁の中でね、エレベーター制限があるっていうのは今の天守閣では展望台までは上がってませんよね。途中までであと階段でしょ、その意味で今エレベーターの制限があるってことをおっしゃったのか。

それとも違う意味があるのか教えてください。端的に。

渡辺主幹

木造復元をしていったときにエレベーターを例えば中に設置をするといった場合につきましては、史実に忠実にまずは復元をしていくといった状況下の中で、まずは検討しているってこともありますので、エレベーターを設置する場合に例えば柱の部分を一部をきりかえてしまうだとか、切断してしまうこと場所だとかそういったところだとか、あ

とはエレベーターの大きさ等によって、かなり制限が出てきてしまうだろうと。
そういったことによっては今の現状の木造の復元の中のエレベーターがつけられる場所、
着床する階がある一定の限りが出てくるだろう。
そういった形での内容でございます。

西川ひさし（自民・昭和区）

まずねエレベーターをつけるつけないの案がある。それもまたエレベーターの外に付ける案、中に付ける案がある。そんな話っていうのは例えばこれは史実に忠実なね、木造復元に向けた中でも目的で書いてもらってるんですけど、世界で唯一史実に忠実な復元が可能と言われている名古屋城天守閣の木造復元について国内外への PR というのはそこもあるんですが。何回も何回も聞いている史実に忠実なものっていうのは大事じゃないの大事なのどっち。

渡辺主幹

史実に忠実に復元することは大事であるという考え方でおります。

委員 西川ひさし（自民・昭和区）

さっきの答弁の中で設置する場合そんなだったっけと柱の一部を切り込んだりとかっていう話も出ましたね付ける場所が困るとかって方だからそれでも史実に忠実といえるのか。

渡辺主幹

史実に忠実に復元をしていくといったことに関しまして、どういった状況を付加要素としてどのようなところが史実に忠実に復元をしていくといったことに関してお認めいただけるかといったところも、今後あわせて検討していく必要があると、そのように考えているところでございます。

西川ひさし（自民・昭和区）

昔の名古屋城にもエレベーターあったんですか。ほんまもんには

渡辺主幹。

焼失前の天守の方にはエレベーターの設置をしておりません。

西川ひさし（自民・昭和区）

焼失前のモノ、要するに本間もんのエレベーターを今の時点で、考えているってどういことですか。全然話もわかんないんだけど。例えばねさつきいった階段を急な階段

ですよこれ戦争時代ね、なんだ、オヤシロっていか敵に威圧感を与えてもし来て攻め込んできても容易に登ってこれない、そういうものがお城であって、全然これ意味が分からない史実に忠実ってどういう言葉なんだろうと思うんですよね。

もう一つ史実で忠実でこれね、俺地元の方々が嘆願書をもたらってきてます。ご意見としてという意味でね。この方もその要約しますと、今回の名古屋城の木造復元については、我々の子孫に貴重な文化遺産を残すことができるということに大きな期待をしてね、そして仲間とともに寄付もしてきたと。ところが、せんだって、名古屋城にエレベーターをつけるだとか、バリアフリーでこれも工夫していけばいいと思うんですよね。そうしたものを江戸時代の創建時にないものをつけて本当にいいのだろうか。この方には国宝重要文化財とは何たるものか全く分かっているので残念であります。史実に忠実だから意味がある意義がある。そしてまた、昔外国から来た観光客の方々に言われたのは歴史あるお城に何でエレベーターついて乗った。お城が展望台じゃないでしょ。そうやって言われて恥ずかしい思いをした。なぜ今、お城をコンクリートで再建したのかね。今の今のものをね、それ耐震するのでええじゃないかとそんなエレベーターをつけるんだらというご意見もあります。この方はね自分の思いを寄附をしたその思い、これがエレベーターだとか、そんな議論をするようであるならば、思いとしてそんな寄附なんて返してもらいたいし、本当にこの事業が名古屋の宝物になるのか不安でたまらない。この方の歴史ね。

刀剣だとかいろいろ、文化伝統について一生懸命多くの方々に理解を受けても深めてもらおうという方であるからこそ、本物のちゃんと史実に忠実も作ってもらいたいという思いがあります。私これ、市長さんに市長さんにも自分の意見を聞いてもらいたいと思っていました。市長さんなんておっしゃったかエレベーターについて市長からエレベーターも考えろって指示があったんですか。お答えください。

名古屋城所長 西野所長。

今ご指摘いただいておりますように私ども、史実に忠実に天守閣を木造で復元するという事を事業として行っていこうというふうにしております。その中で、一方で、今バリアフリーということが非常に大事な世の中にあって、これから復縁する際にですね。バリアフリーということについてきちんと念頭に置いた上で整備していく必要がある。という意見もいただいております。その中で、エレベーター設置しない、しない場合に、例えば一つの補助具ですとか、あるいは新しい技術。そういったものを使いながらまた人の手を使いながら例えばハートフルデーみたいなところでそへ上がっていただくようなそういうふうな形を設けるとか、そういったような考え方も、一つあろうかと思えます。

それとともに、やはり階段急な階段登りにくい方もある程度自分の力で登れるようにという意味での場合エレベーターというものをぜひつけてほしいと、そういうふうな意見

もあります。史実に忠実という中でも、これからつくるもので一部そういう現在の技術が入ることについて、例えば、当然耐震のほどこしがそういうことをしないと申せさんから、それとあわせてエレベーターというものも考えられないかと。

そういうふうなご意見もいただいております。

そういったこともございますので、現在、私どもとしては史実に忠実というのは当然念頭におきながら、考えられることというのをまず出しまして、それを整理して参りましたので、それをまた有識者の方々にも、ご意見を賜って最終的に決めていきたいと、そういうふうにご考えておりますので、現段階では私どもの今検討の過程であるということでご理解賜りたいと存じます。

西川ひさし（自民・昭和区）

すいません全然理解できません。聞き、僕がお聞かせ答えていただきたいことを全く持って答えて見えないと思います。新しい技術なんてものがそんなね、簡単にできるものでしょうか。それとね。エレベーターを今でも中に設置。外に設置も複数案の中の一つだとかね。これ何を検討したのかわからない、さっき僕は市長さんなんて言ったかってお聞きしましたけど市長はなんて言ってるかっていう答えてないですよ。

名古屋城所長 西野所長

市長はさっきの本会議でもですね申しました通りそういう人の手でハートフルデーなどでですね上がってもらうとか、そういったことを言っております、市長の方からエレベーターを検討せよとは言われておりません。

ただ、市長は今時点で市長もエレベーターをつけないという結論までは出してないというふうにご認識しております。

西川ひさし（自民・昭和区）

せんだって僕この嘆願書をね加藤さんという方ですけどね、預かって市長さんに見たら、そうだなと。ね。私は、エレベーターをつけるとは一言も言ってないと。そういう形でますよ。なぜ今検討案の中で、今の時点で、エレベーター本当に付けるつもりなのかなっていう、この有識者の方で判断してもらって、それ違うんじゃないの。何を作りたいんですが皆さんは何を作りたい。本当に史実に忠実という意味がわかって見えるのか。

できる限りのねバリアフリーで段差解消なんかちょっと後から取れるのもつけてくってというのはまた別の話ですよ。エレベーターは明らかに設備じゃないの。

そこの認識ってどうなってるのかってエレベーターは設備じゃないの。

おかしいよそれが今まだその検討段階中なのでご理解下さい、理解できるわけがない。

今も3月ですよ3月7日10日ぐらい。

8日私今の段階でこんな話ししてていいのかないいんですか。

ちょっと答えてください。

こんな本来いいかげんな話ないよこうこういうねいけんわね僕いろんなどころでお聞きするんですよ。

本物の史実に忠実だから我々はぜひと思って自分も賛同した。皆さんも多分聞いてみますよねそういう話。ねえ。

何の何でスタートしたときの一番ベースとなるべき基本が今の時点になってぐらぐらぐらぐら触れて言っちゃってね、バリアフリーはバリアフリーで大事なことですよ。

史実に忠実の最初だったらそこに行かないがこれ何百億円もかけるんでしょう。

何百年もこのお城は我々の誇りだっていうことを会議場でも市長さんおっしゃってたけど、そのために建てるんでしょう。はいかにも何かいいかげんなものにこんな中途半端なもので聞いたって、宝になるのかしら。局長答えてください。

渡辺局長

確かに委員ご指摘のように、史実に忠実を望む声というのはたくさんおみえになるという事は認識しています。

そのような中でバリアフリーの問題につきましても大きな問題だということで副市長をトップに、今、検討しておるところです。

あくまでも史実に忠実なものを作っていくというものにつきましても、その方針は変わりはないというふうに思っております。

史実に忠実な中でどういったことができるのかということは今検討しておるところでございますので、グラグラっと今ご指摘がございましたけれども、広範囲なことを考えていることに違いはなく、史実に忠実の範囲内でどこまで何ができるのかということを考えてるとかそういったような状況でございます。

西川ひさし（自民・昭和区）

史実の忠実なっていうのはね別に何通りもないんですよ一通りしかないんですよ。

あとバリアフリーをどうやって工夫していくかというのは後付けのものであるわけだと思えます。グラグラしてるのはこれこのプロジェクトの総責任者って誰確認します。このプロジェクトの総責任者はどなたですか、局長さんですか副市長ですか、だれでしょうか。

渡辺局長

このプロジェクトリーダーは堀場副市長でございます。

委員 西川ひさし（自民・昭和区）

その大もとでしようプロジェクトじゃなくて何だこのお城を建てる、責任最高責任者

渡辺局長

すいません。観光文化交流局長の私でございます。

西川ひさし（自民・昭和区）

市長じゃないか。

渡辺局長

最終的には市長でございますけれども、現段階では私の方で所管しておりますので私というふうにお答えさせていただきました。

西川ひさし（自民・昭和区）

局長さんも大変苦しい立場ですし、僕そう思わんの。市長さんの言い出しっぺ無理やり言い出しっぺしてみんなで議論して積み重ねてきた。ステップ数すごいその議論去年もずっと皆さんかけてやってきた積み重ねてきたものであってね、いろいろな思いがあります。

来てて、これ最終責任者は市長だと思うんですよ。市長さんがね、いい顔してバリアフリー化でエレベーターつけてちょうとかって言われたときに、一つ考えてみましたじゃないでしょうね、そんなとき思ったのは、本人はわしはいつとらんと勝手に周りが描き出したっておっしゃるんだけれども、そうならばそのときにね。いやいやこれは史実に忠実なものを目指してます史実に忠実をしろというものは、敵を寄せ付けないものであるし、砦だし、簡単に登れないので、それに展望台ではないのでね。そこら辺はご理解くださいぐらいの答えをパチッとしておけばこんなグダグダグダグダ引っ張らなくて済むんじゃないのかなと思います。そう思っています。今でも。だから本当に大変だと思います。

本当に5月でできるのかズルズルズルズルまたいところで延びたらどうなるんですか。5月延びたら。さっき浅井委員からもあったけどこれ遅れて遅れてずっと遅れてってあと文化庁の問題も出てくるでしょうし、このままほかりっぱなしのどうするんだろう。

渡辺局長

デッドラインは先ほど申しあげましたように、5月には設計の方に反映しないといけないスケジュールが閉まっておりますので、そこまでに決定するという、そういうスケジュールであります。

西川ひさし（自民・昭和区）：そうすると、昨年の所管事務調査のときに5月の7日で一旦

その入場取りやめます。という答弁が出ました。これはもしかしてズルズル過ぎていくと、いつ。できるかできないかわからんものに5月の7日から入城制限だったっけ。入城禁止しちゃっていいの。

これそしたらそこのそれを目標目的として観光で訪れる方々が見えて、今でも魅力のものなのに。ね計画があつて5月7日締めますっていうお答えがありました。去年だったかな。

それでどうするんですかと5月七日の中で閉めといてずれてもずれてもそのまま見ると来なくなっちゃうなんだ、行くところがなくなっちゃう魅力がなくなっちゃう魅力向上じゃないのこれ。

渡辺局長

5月7日入場禁止につきましては、石垣の方の背面調査の方からのスケジュールということで、固定的には決まっているところでございます。

バリアフリーにつきましてはそれとは別に、その段階において判断していくと決定していくと、そういうスケジュールでありますので、予定通り入場禁止についてはやっていきたいというふうに思っております。

西川ひさし（自民・昭和区）

そうすると、石垣調査これでも本当に閉めなきゃいけないのかな。石垣調査のために、入城禁止しますよ。うん。外から来た方々がお城天守閣ね。魅力があつてきている。それが、例えば極端な話、新技術をね、もしかして可能性がありますという話が5月中に出た。でももうちょっと開発に待ってくださいということだって、向こうからの要請が来た。それ延ばしていくわけじゃないの。そうすると、ズルズルズルズル延びてくるような気がするんですけど。温度それはなぜそこまで聞くかというときっきの話でもエレベーター外内の段階でね。同じ新技術を期待してますとかつていう答弁では、これがまだ1年も先の話ならいいですけど。だから聞いてるんですけど。

どうするんだろう

名古屋城所長、西野所長

エレベーターの設置をするしないにつきましては、新技術については来年度、調査を行うという段階ですので具体的なものはその中では出てこないですけども、つけるつけない、そういったことについては、5月には決めていかないと、設計に反映して、文化庁の許可ということにもなってますので、それにつきましては先ほど申しました、有識者の意見も聞いて決めていくということはやってまいります。

西川ひさし（自民・昭和区）

つけるつけないとエレベーターのこと。

名古屋城西野所長。

名古屋城で一番このバリアフリーで大きなところとしてはエレベーターをつけるつけな
いでつけない場合にどうするかというのも当然ございます。

それは新技術というのがこの技術でということまでは 5 月には出せないと思いますの
で、こうだ 5 月の段階では、エレベーターをつけるかつけないかを決めて設計に反映し
ていくということでございます。

西川ひさし（自民・昭和区）

すいません 5 月にはその新技術がわからないけれども 5 月にはつけるかつけないかを
判断して設計に生かしていくということは意味わかりませんが、何。ドラえも
んのポケット？全然意味がわからない。

中川貴元（自民・東区）

ちょっとちょっと関連だけど

関連まず確認ですけど、天守閣に登っていくのにまず勾配は何度ぐらいで、幅はどれ
ぐらいのものがありますか。

名古屋城事業調整担当主幹中野 中野主幹。

木造で復元する天守の、階段の勾配でございますが、最大で 55.7 度でございます。

それから、幅 幅員でございますが、一番狭いところで 1.0 メーターで広いところで 1.7
メーター程度。

それから、あと、階段の踏面、一番最初、最初の幅が 20 センチ。それから、蹴上です。
蹴上の一番最大が 29.4 cm でございます。最終的にすいません。階段の段数が地層から
5 層まで 126 段でございます。以上でございます。

中川貴元（自民・東区）

それはね。多分、健常者の方でもう、まずまず。大変なことかなと思われそうですがどう
感じられてますか。

名古屋城所長、西野所長。

大変急な階段でしかも名古屋城は大きいですので、かなり大変なことだというふうには
考えている。

中川貴元（自民・東区）

行政の皆さんも、それから我々も、健常者の方も、それからあるいは、ハンディキャップを持ちの方もすべからくみんなやっぱり見ていただきたいなと思うのは、これは当たり前のことだというふうに思います。

ですから、なるべく多くの方、ハンディキャップのない方もあるかたも全ての皆さんがこれをくまなく見てもらえるようなそんな名古屋城であってほしいなと思うのは、これは当然だと思います。がしかし、史実に忠実となると、残念ながら、そうではない側面もでてくるであろうとそこの境目のところでどうしたらいいんだろうかというのが今の現状ではないかと思います。その点についての認識はいかがでしょうか。

名古屋城所長 西野所長。

委員ご指摘のとおりだと思います。

中川貴元（自民・東区）

そうしたときに、今の議論を聞いていると、明日や明後日に新しい技術が急に降って湧いてくるというのは、これは現実として現実味がないなというように思います。

多分、多分ですが、市長も皆さんも史実に忠実であるという側面からはエレベーターというのは、若干、うーん考える。面もあるなというふうに思っただらっしゃるんだと思います。ただ僕はそこで、この問題はね。この1年、あるいは5月までで、決着をつけてしまう問題なのかなというようにも思います。それは単にエレベーターをつけるかつかないかという一つの側面においては5月までに決着をつけざるを得ない。これはやむを得ないんだと思います。

しかしながら、行政も、あるいは我々も1人でも多くの方、に見てもらえるような努力見てもらうためには、短期間だけではなく、ずっと継続をして努力をしていくんだと。いう観点に立てば、エレベーターもしかしたら諦めるのかもしれないけれども、新しい技術に期待をし、あるいは新しい技術、へのチャレンジをしていく。そういう姿勢を、当局も我々もオール名古屋市で持ち続けていく。そしてそれが例えば今年度、来年度だけではなく、再来年度もその後も、予算に反映をする中でね。新しい技術を追求していく1人でも多くの方がそういったところにみることができる可能性を追求し続ける。という側面は我々は持ち続けてもいいのではないのかなとこんなふうに思いますが、いかがでしょうか。

渡辺局長。

委員ご指摘のとおりだというふうに思います。新技術と言うの一例申し上げますと、今空港とかで、重いもの、荷物を持つ、そういった補助器具をつけて、解除に使ってらっしゃるかそんなようなこともございます。先ほど、エレベーターあるなしではなく、将来にわたっていろんな方をサポートするような、そんなようなことを研究しなければ

いけないということで、これ長いことかかるかもしれません。研究開発の方も続けてる企業さんもいますのでそこらの協力も得ながら長い目で研究していくという、そういった姿勢は委員ご指摘のとおり必要だというふうに思います。

今回の1000万の予算につきましても、その辺のところも含めまして、基礎的な調査を行い、その後、本格的なものをどういった形で予算化していくのかっていうのは他、次年度以降のまた次年度以降の話になろうかというふうに思っております。

また、先ほどの技術的な機械的なものですが、関西福祉大学が昨年社会実験でやりましたが、人力によって姫路城を上げたというそういった事例もございます。

そういったものも我々も今研究対象としてエレベーターがあった場合なかった場合、あっても、てっぺんまではいけませんので、今も名古屋城はてっぺんまで行っておりませんので当然、エレベーターボックスが上に突き出ちゃいますんで。

そういったことはできない構造上、いくら頑張っても出てはいけないというようなこともございますんで。

そういったときにはやはり人力によるサポートっていうのも一つの我々のできる、可能性ではないかということで研究しようというふうに思っております。

中川貴元（自民・東区）

繰り返しになりますが、タイムリミットはある面決まっているところもあります。ただそれは、いわゆるエレベーターを設置するかしないかという点。であって僕は繰り返しになりますが、1人でも多くの方が、誰もがそれこそバリアフリーで、そこに到達できるようなそういう研究は、絶えることなくね。多少時間がかかっても研究模索をしていただきたいなというふうに思います。とりあえず以上です。

西川ひさし（自民・昭和区）

すいません局長さんがおっしゃった手助けをする機会じゃパワーサポートだとかその新技術のことだと思いますよねそういうのはわかるんですよね。もう一つ、すいません設計がありますね設計図面がね、史実に忠実だと立てますよね。今の新技術だとその元の設計のままでいけるものを目指すわけですよね。だけど設計はあくまでも設計であって図面があってそのまま作るんだから。これ例えば一部の切り替えだとかで木材であったりそれ史実に忠実な設計図面通りじゃなきゃだめじゃないの。

その考え方確認、もしそれが、当局はどう考えてるんだともう一つは、文化庁はどのような考え方を持ってのかってしてみるはずなんだけども聞いてきてそれは着実に図面のままじゃ駄目だっていうお答えをもらってますけれども。それはわかってみるのかどうか教えてください。

名古屋城所長 西野所長。

史実に忠実ということの考え方ということのご質問でございますけれども、うちのとおりに、今残っている図面の通りですね復元するというのが基本であるというふうには考えております。

ただその中に、例えば今のこれからの復元する建物として最低限の変更によって、エレベーターをつけるということがそれがどうなのかというのはですね、実際につける主体ある名古屋市の方で一つ考えをしっかりと持っていく必要があるということで今検討を今している段階であると文化庁としても、基本的には名古屋市の方で、有識者の、から意見をよく聞きながら、案を持ってくるようにということで、文化庁としても判断、こうだというものが示されていないと、そういうふうな状況でございます。

西川ひさし（自民・昭和区）

最低限の変更というのはどこまでが最低限なのかそれ全然分からないのと、もう一つ名古屋でひとまず策を練ってこい、知恵を絞ってこいって文化庁おっしゃるその通りです。ただし、文化庁それでもってきたとしても、エレベーターだとか史実に忠実ではないものについては、認めないってことは僕がお話をいただいております。これ本当にね、本当のところどうなんだってきちっと確認された方がいいですよ。じゃなきゃ今の検討全て無駄になっちゃうと思うんだけど大丈夫なのかなと思うんですけど。

この最低限の変更とはどのレベルが最低限の変更、全然その基準でもないはずだし俺は名古屋市が勝手に決めちゃうことでしょう。それが果たして本当にこの検討にもお金がかかるわけですよ。時間も過ぎてくわけですよ、新技術に夢をかけるっていうのもいいと思います。だから設計図面どおりつくればよいんだのもの。

だってそんな中で上がってくると急な階段だけでも、はしごみたいなもんだと思いますが、もっとできるような新技術を夢を持ってる目指していくっていうのも素晴らしいことだと思います。

しかしこの最低限の変更というのは理解できないそれを文化庁にもう 1 回しっかりと確認をされた方がいいと思いますけれども、されるおつもりはないですか。

これは検討してこういうのエレベーターつきますよっていうのを有識者で見て認めてもらって初めて持って行くのそのつもりなのか。

名古屋城所長 西野所長。

委員ご指摘のとおり、史実に忠実という中で、最低限の一部の変更というのがどの程度であれば復元であるのかどうか、これについては基準もございません。

ですから、私どもとしては、名古屋市の中でしっかりとした議論を経て、しっかりと決めていく、そしてその考え方をしっかりと文化庁に説明をしていくということしか今はないんじゃないかと。

改めて文化庁に聞いてということでございますけれども、今まで文化庁にお聞きする中

では、先ほど申しましたように、こちらで考えをまとめてということと言われておりますので、なかなかお答えいただけないというふうに認識しております。

西川ひさし（自民・昭和区）

じゃあ検討されてエレベーターが必要だから若干柱を切って切り替えて、それが最低限の変更だからといって名古屋で有識者でこれ OK だから持って行こうと言って向こうで却下されたら誰が責任取るの。2022年遅れちゃうけど。そんなんでもいいのかな。ただでさえ遅れているのにもっとビシバシと進んでいかなきゃいけない時期なんじゃないですか。大きくこれ事業遅れますよ。それでいいんですか。

名古屋城所長 西野所長。

先ほど申し上げましたように5月に間に合わないとですね工程の見直しということもう一回検討しなきゃいけませんので、5月には決めれるようにしっかりと対応してまいりたいというふうに考えております。

西川ひさし（自民・昭和区）

いつまでたっても当局さんはそちらその言い方しかされない、されないでも時間もありますし、ただ僕は強く、そう心配していることを申し上げさせていただきます。寸分たがわずというものを知りつつ、忠実なのが最低限の変更といたって、柱切り替えたりエレベーターをつけることがその範疇に入るのかどうかというのも、それは基準はない。当たり前ですよ。だってこれ、史実に忠実に、日本で初めてやろうやろうとする一大事業ですから、もしそのときに、遅れちゃったりするっていうことを非常に心配しているので、しっかりと本当に史実に忠実に最初の方針に従って、ぶれることなく、きちっと、新技術に夢をかけても空かけるべきだと思いますが、しっかりと事業を進めてもらわないと。いつまでたってもダラダラダラダラやってるような感じがしますんで、非常にそのことを心配していると本日は申し上げます。

江上博之（共産・中川区）

私もバリアフリーについてお聞きをします。私もどなたもですね。展望台施設にのぼれる、それを実現することが当然だという立場で質問をさせていただきます。史実に忠実といいますけれども。だいたい今の天守閣がコンクリート製になっているんな思いもありますけれども、当時は建築基準法上、コンクリート製しかできなかった。要は適用除外という項目がなかったと思うんです。その適用除外ができたのは今の名古屋城ができてからかできてからだと思います。基準でいうと建築基準法の第三条に、第四項というのができて、原型を再現する建築物で、特定行政庁が建築審査会の同意を得て原型の

再現がやむを得ないと。こういう根拠でしか建てることはできませんよね。
そういう理解でいいですよ。どうですか。

蜂谷主幹

ただいまの法三条の取り扱いについての御質問についてですが法三条の趣旨につきましては、建築基準法の前身である、市街地建築物法のときからございました。

市街地建築物法から建築基準法に移行した際にこの三条の内容についてはそのまま継承されております。

34年の改正で新たに再現原型を再現する建築物という言葉がつけられましたけれども、それより前から建築する場合という言葉がありましたので、正確には34年からできたかどうかというところはわかりません。

ただし、この34年の改正をされた際の国土交通省の国会答弁委員会委員会での答弁をから考えますとこの34年からは初めて原型を再現する、建築が可能になったものというふうに考えております。

江上博之（共産・中川区）

そういう趣旨から、文化庁がとやかくの前に原形を再現する建築物っていうのが自分の方とこで考えるのは当たり前なことなんです。そうしたときに、市長がエレベーターについては検討してないっていうのはこれは賢明なんです。エレベーターっていうのはつけられないんですよ。なぜかといえば、今問題になっている車椅子っていうのは大変重量がある電動車いすで大変重いものでしょ。

先ほど中部国際空港で人がなにかって言ったのは大抵何ていうのクッション中か何か空気入れ空気かなんかでね軽く介護の仕組みでもありますよ。人がそこに入り込んで空気が入ってなんか浮くような、要は体重減らせるようなものまではできてるんかもしれないけれども、今の電動車いすレベルの天守閣部会のとくに意見を言われた方のこういう方のね。電動車いすの重さからいったらとてもじゃないけどエレベーターではなければ無理だと思います。だから市長もエレベーターということは一切言わない。

そうすると今問題になっているのはエレベーターをつけるかどうかという議論をしているというんだけど今構造的に内部でエレベーターをつけることはできますかそもそもどう考えたって。だから竹中工務店だって簡易なエレベーター4人乗りとこういう条件をつけてきたのはそういうことを意図してでしょチェアリフトということのを皆さんが言われたのもそういうことを意図してでしょ。

構造そのものを変えるってことはそもそもできないということがわかっているからそういうことを言ってきたんじゃないですか、できないことがさも出来るかのように言って5月まで引き延ばすことは、これは私は問題だと思うんですよ。

できないことはできないとはっきり言うべきじゃありませんか、どうですか。

渡辺主幹

今委員おっしゃられたの木造天守閣の中にエレベーターを設置することができない。いいではないかと技術提案の中ではいわゆる少人数乗るエレベーターではないかとそういったお話でなかったかと思えます。

内部にエレベーター木造の天守の中にどういったエレベーターが設置ができるのかと。そういったことも状況、天守の木造の史実に忠実に復元をするといったところを前提にしながらも、といったことでの対応することにより、どれぐらいの大きさであり、どの階まで着手できるのかと、そういったことも議論をしていく必要があるならないかなと思ってます。

当然ながら史実に忠実といった範疇の中で検討していくといったことをございますので、ある一定の条件下の中で検討していく必要があるとそのようには思っているところをございます。

江上博之（共産・中川区）

あれだけ重量がある車いす 5 層までのところはいけないと、二層か三層までしか行けないとしたとしてもですよ。そうしたらそこから上はどうやっていくのかと。大変重いもの、エレベーターでしか無理ですよ。あげるのエレベーターでも大変なそれなりのものがないとか難しいんじゃないかなと思ってますけれども、新しい技術ということを言われた。新しい技術があるからこれからっていうことを言われるのかもしれないけれども、先ほど言ったように今できている技術でもですね。人間レベルはいいですよ。だけど、言われている前提の話は人が乗って重い重量の車いすを上げるということなんですよ。そもそも内部でそんなことはできないとはっきり言うべきじゃないですか。それは言わないからも、そこは飛ばしますけどね。そうしたら外部ですよ。外部でそれができるかどうか。外部だったらできるかもしれない。

そうすると外部で問題が出てくるのは今名古屋城にエレベーター外部にあります地上 1 階まで行きます。地上 1 階を今度 5 階までしなくちゃいけないってことですよ。

外部でつけるということは 5 階のどこまで持ってくってということですよ。

5 階まで持ってくってということは相当の建物で、そこから渡り廊下で各階に渡るってことになるんでしょうね。それをやると今度は建築基準法上はひょっとしてできるかもしれない穴を開けなくちゃいけませんからね。

本当にそれがさ、復元ということでもいいのかどうかっていうのは議論があるとしても、穴を開けるだけとすると今度は見栄えの問題景観の問題ですよ。

今の地上 1 階までのエレベーターを作ったときですが、大変な議論があったんじゃないですか、景観上大変問題だとそういう議論があったと私は覚えておりますがどうですか。

名古屋城管理課長加藤課長。

現在の外付けのエレベーターは平成 9 年のときに非常階段にあった場所のところに設置しておるわけでございますけれども、今こういうバリアフリーということが議論されているということで少しご意見はいただいておりますけれども、当時の実際の職員に私も実際に訪ねましたけれども、外付けのエレベーターをつけるにあたって、景観上の問題というのはご意見というのは特になかったというふうに伺っているところでございます。

江上博之（共産・中川区）

なかったでいいですけども、1 階でそういうレベルなんです。それを五階にもっていかないといけない訳ですよ。五階。名古屋城があつて横にドーンとエレベーター等があつてそこから渡り廊下があつてすごいもんですよ。それなら技術的にできるかもしれない。建築基準法上のばれることができるかもしれない。

しかし果たしてそんなものを作る意味があるのかっていうのはね誰しもが思うことだと思いますよ。そういう点では、できないことをできるかのように言って 2000 万円のお金つけること自体私は問題だと思ってるんです。改めて聞きますけれども、この 2000 万円を何に使うのか、項目ごとに資料としてお出し願いたいと思いますが、いかがですか。

事業調整担当中野主幹。

そういう今委員からご要求がありました。バリアフリー検討調査費 2000 万円の項目ごとに資料として提出させていただきます

江上博之（共産・中川区）

私自身は施設のバリアフリーで 5 階まで行きたいなと。行けるようにしたいと思っております。念のためお聞きしますが、現天守閣ね。今 5 階までしかエレベーターが開いた市長しきりに言ってますわ。そう言ってね、今でもこうなるとるぞで 7 階までつけることができるかどうかなんです私から見ると今 7 階のところにお土産ね、売るところがありますけれども、ああいうものがないとすれば、エレベーター7 階まで持つていくことは可能だと技術的です。だから技術的に可能かどうかについて回答をお願いします。

渡辺主幹。

仮にの話ですけども、今の現状、7 階部分まで技術的に今考えるということであれば、いろんなパターンの考えて 7 階まで持つていける可能性はゼロではないというふうには思っております。

江上博之（共産・中川区）

バリアフリーの問題ね。今日のところはこの程度で終わりますけれども、とにかくできない、いやだからバリアフリーはね。

できないことをできるというようなことはもうやめるべきだと。

そういう点で、次回資料をいただいた上でまたお聞きしたいと思います。

中川貴元（自民・東区）

名古屋城ね。これを主な政策等一覧の 31 ページの。天守閣の閉館後の魅力向上事業ですが、1 億 8000 万円。これ 1 番から 4 番まであります。すなわち開園の延長、民間事業者と連携したイベント、隅櫓の公開、堀の活用に係る調査これは、簡単でも結構ですので、ご説明をいただきつつ、1 億 8000 万の内訳を四つに分けてご説明をいただきたいと思います。はい。

名古屋城管理加藤課長。

ただいま、天守閣閉館後の魅力向上事業についてご質問をいただきました。この事業はい。大きく分けまして開園の延長、それからこれが 1 億 1120 万の金額それから、民間事業者と隅櫓の公開ということで西南隅櫓を常時公開していくことと、あと残った二つの隅櫓の拡大の公開ということで 4400 万。それから、民間事業として事業者と連携したイベント多彩なイベントをやっていくということで 1 億 2400 万円、それから堀の活用に係る調査といたしまして 100 万円を予算として計上いたしました。

中川貴元（自民・東区）

ちょっと順番狂ってるね何言ってるかよくわかんないんで、一番開園延長 1120 万 2 番民間事業者と連携したイベントなに 3 番はっていう普通に言ってもらえば結構ですけど、それぞれもすこし若干ちょっと説明加えてくれってお願いしただけ。

名古屋城管理加藤課長。

大変失礼をいたしました。

一番の開園延長につきましては、4 月から 8 月までの日照時間が長くなって、お客様の観光がしやすい、シーズンということで一時間の名古屋城の延長を行います行うことを考えております。その他桜の時期ですとかゴールデンウィークですとか、夏祭りについては従来通りの延長をやっていくというものでございます。金額については 1120 万を予定をしております。

それから、二番目といたしまして、民間事業者としては連携したイベントにつきましては、年間を通じた、場内でのイベントを実施するとか、イルミネーションの秋から冬にかけての新たな魅力の、イベントとしましてイルミネーション事業を展開していく。

それから冬期、冬の時期は閑散期というふうになりますのでその冬期に屋内の施設を特別の施設を作りまして屋内でイベントをやっていくための事業ということのを合わせまして1億2400万円というのを考えております。

それから3番目といたしまして、隅櫓の公開等をしまして、西南隅櫓の通年での公開ということと、東南隅櫓、西北隅櫓について、公開期間を拡大をしていくという。

ということで4400万円を考えているところでございます。

あともう一つは、堀の活用に係る調査といたしまして、名古屋城の水堀における船の活用等について、必要な調査を行うということで100万円を予算として計上いたしました次第でございます。

中川貴元（自民・東区）

そうすると今度のもうこの4月から8月までの45678 5ヶ月間は、一時間延長するとういう理解でいいですか。

名古屋城管理課長加藤課長。

議員ご指摘のとおりでございます

中川貴元（自民・東区）

はいだけど委員会委員長で括弧2番目で1億2400万円かけたその民間事業者と連携したイベントですけど、この民間事業者は、もう決定されているのか、それから何か公募か何かをしていくのかどういいう予定ですか。

名古屋城管理課長加藤 加藤課長。

この事業者につきましては、今、事業事業の提案をいただくべく公募していくというものでございます。

中川貴元（自民・東区）

いつぐらいの時期にどういう形でおやりになられますか。

名古屋城所長 西野所長。

公募につきましては今年間を通じて、イベントを委託する部分これについては早々に公募をいたしまして早くからですね年間通じてイベントできるしたいと思っております。

それからイルミネーションこれは新しい試みとして、イルミネーションなどの夜の魅力を高めようと、こういうものにつきましても、これはこれとして単独でまた別途、秋ごろになるうかと思いますが、公募いたします。

それともう一つ冬のですね閑散期冬はやっぱり寒くてどうしても人が少なくなる、この天守の閉館の対策でもありますので、冬にお客さんに来ていただけるように少し屋内施

設でイベントをやるということもございます。

これも冬に向けて秋ごろの募集ということを考えているところでございます。

中川貴元（自民・東区）

イルミネーションってのはだいたい何月から何月をイメージですか。

名古屋城所長 西野所長。

11月からですね、2月ぐらいの今予定しております。

中川貴元（自民・東区）

3番の隅櫓の公開 4400万でのまあまあ金額かなと思うんだけど。どうしてこういう金額になる。公開+何か例えば、説明の方つけるとか何かそういうようなことが行われるわけですか。

名古屋城所長 西野所長

隅櫓の公開にあたりまして今今までは、隅櫓を公開するときは短期間でしたけれども、常時公開しようとするとはやはり消防設備をですね付加しなきゃいけないというふうなことや、あがっていただいたときの落ちたりしないように手すりをつける。

それと今ご指摘でありまして、案内誘導のスタッフを委託すると、そういった費用がかかるということもございます。

中川貴元（自民・東区）

それから4番目の堀の活用これ局長からも前に、ご答弁をいただいたものであります。これが100万円と、なんか少ないようにも感じないでもないんですけども、これはどっかの民間に丸投げするわけですか。

名古屋城所長 西野所長。

はい民間の委託を予定しておりまして、その中で他都市の先行事例の調査などを中心に、調査してまいりたいと考えております。

中川貴元（自民・東区）

これは100万円でその調査ができる。それ他都市を調べる。という程度のものですか。

やっているのはこれ。とても堀の活用というのは、とてももしこれが本当に実現するとすれば、とても大きな事柄でメインになるかと思うんで。

ぜひこれはやっていただきたいなと思うんですね。この程度でいいのかと。

名古屋城 西野所長。

委員ご指摘の通り事業が実現しますと非常に大きなですね魅力になるというふうに考えておまして金額は少ないですけども、他都市の調査とそれから史実。

江戸時代に、この堀がどういうふうに使われたかと史実をさらに調査をする、それを持って文化庁にですね、こういった事業を認めていただくということでございますので、ここの予算で、行ったことを元にしっかりと説明して行って実現に向けてまいりたいというふうに考えております。

中川貴元（自民・東区）

最後にしますね。堀の活用は具体的にはね、どんなイメージ持っていらっしゃるのか、そのイメージに基づいて多分調査もしていく必要があるかと思うんですけど、ま他都市は他都市でねいんですが本市は本市でどんなイメージを持っていらっしゃるのか、最後にお答えをいただきたいと思います。

名古屋城西野所長

今申しました史実を調査いたしまして藩主がですねこういうふうな動きで堀の中を動いてましたということの一つベースにしながら、名古屋城の堀から見たいろんな見どころなどをですね。ガイドをして楽しんでいただくと、今のところそういうふうなイメージで考えております。

藤井ひろき（共産・中村区）

関連で伺います。今日が3月8日ですから、いよいよ天守閣から5月7日まで2ヶ月切ってるということで今ご質疑の中でそれぞれの内容について答弁ありましたが、今の城で展示されているものも非常に価値があってそれ目当てで来られるお客様は観光客の方もたくさんおられると思うんですよね。そこでお尋ねしたいのは当然、このまま仮に木造の天守閣ができた場合は、そこで博物館今の機能のように展示はできません。

この閉館したあとですね今提示している品とかあと今保存している品は一体どこで展示したいどこで収集は保存されるのかについてお尋ねいたします。

名古屋城総合事務所管理加藤課長。

名古屋城で今展示している資料等について、ご質問をいただきました。

天守閣が閉館、その後解体となりますと、本丸御殿の重要文化財である障壁画ですとか。そういった重要文化財のものについてつきましては現在、建設をしているところで展示収蔵施設において、将来的には、収蔵したり、展示したりしていくということでございまして、その他の名古屋城で収蔵している。資料につきましては、現在、検討中でございますけれども、来年度、予算で計上させていただいております。

金シャチ横町の第二期整備の調査の中でも検討を行っていきたいと思っておるところでございます。

藤井ひろき（共産・中村区）

今の答弁でいろいろ新しいところに展示するっていう話でしたが、全部が展示できるんですか。今展示しているのが全部展示できるのかなっていうその規模がどうなるかなっていうのはちょっとはい。

名古屋城事務所管理 加藤課長。

品数も多いですので、金シャチ横丁の調査等を含めまして今後調査をしていくということでございます。

藤井ひろき（共産・中村区）

それでは資料で名古屋城が今どういったものを展示しているのか、展示品の一覧と、あと大天守、大天守の展示物の展示方法ですね。

今どういったものを展示しているのか、どういったものを収集していて、分野別にどういったものがどれだけ数あって木造化になった場合はそれぞれどうなるのかをわかる範囲でいいので、ちょっとお願いしたいんですけどいいですか。

名古屋城総合事務所管理課長加藤課長

現在の資料の内容等についてということで資料をお出ししたいと思います。

と思いますが、将来的な展示のことにつきましては検討していくということになっておりまして、現在の展示の状況でよろしいでしょうか。

藤井ひろき（共産・中村区）

現在の展示状況について、それがいつ今後どうなっていくのか、とか。

今収集して展示しないが保存して持っているものもあると思うので、その数も一緒にわかる範囲でお願いいたします。

名古屋城管理課長加藤課長

資料で提出させていただきます。

西川ひさし（自民・昭和区）

すいません今名古屋城が持つてる文化財だとかっていう話だったと思います。展示物ね。もう一つ後はコンクリで作ったもので、展望台としての機能もあったし、今展示室という機能も持ち合わせたものだもんで史実についてはまた全く別の仕事だったということ

ですね。ただやっぱりお城にやっぱりつきものものっていうと防具だとか、刀だとか様々なのがあるかと思いますが。

例えば市の日本の伝統技術だとか文化、歴史を語る上でやはり刀剣というものっていうのは非常にかたですね。

重きものであろうかと、そしてまた今の若い女の子にも非常に人気でね、魅力ある、刀剣刀ブームも、今来てると思いますし、やっぱりあれはその時代に作られたものであるもので、失ってしまったらなくしてしまったらえらいことになる。それが年 2 回の期間を決めて展示をして見えます。それは広くの人たちに方々に刀剣協会の皆さんがご自分の収集したコレクターを幅広く見ていただくことによって、その魅力を伝えていきたい。

そしてまたあわせては名古屋城というその地域の活性化じゃないですけども、なんていうんだろ。盛り上げていくというためにやっていただいているものもあります。

ですから、今は収蔵しているものとあわせて、そうした方々も今後天守閣を解体 5 月 7 日から。確か 5 月の 6 日まで今回も展示していただけることになっておりますけれども、その後も途切れることなく、しっかりとそういった文化や伝統というものを多くの皆さんに観ていただけるような工夫を責任を持ってやってもらいたい、今お聞きしますと具体的にはまだね、これから想定きちっとやっていただく。

そうどもんですから、責任を持って必ず途切れることなく、その展示を時期がだいたい春頃だと思うんですが、やっていただけるかと思いますが。お約束をいただきたい。

お願いします。

名古屋城管理課長加藤課長。

今のご質問でございました。

例えば、刀剣類の展示等ですね、名古屋城では、所蔵しておりませんが、例えば市民の方が持つて見るということでご協力いただいて展示をしているという。

いう展示もございます。

例えば刀剣のものについては、ゲームなどで、今や女性からも人気になっている展示でもございますので、例えば歴史文化的価値が高く、魅力も高いと名古屋城のブランド向上して、集客を認めるものということにつきましては、場所についてもいろいろと課題はございますけれども、特に本市主催事業のものにつきましては、実施を前提に検討してまいりたいと存じます。よろしく願いいたします。

西川ひさし（自民・昭和区）

はい。よろしく願いいたしますやっぱり刀剣というやっぱりそこら辺に並べておくわけにはいきません。

ですからしっかりとしたなんていうんだらう、盗難防止じゃないけども、きちっとしたね。展示方法並びに魅力が出るよく分かるように照明とかも工夫が要るだらうと思いま

すが、しっかりとそこら辺も考えていただいて、責任を持って途切れることなく展示していただけることをやってくれるっていう話で。引き続き努力していただきたい、そのことを申し上げて終わります。

手塚将之（減税・千種区）

今、藤井委員と西川委員から、収蔵の刀等について質問があったと思うんですが、5月7日にですねこれ市民の方から聞かれることもあるんですけども、5月中を過ぎた後に現在の天守閣を解体していくと。

今の天守閣の上には金シャチが載っていて、瓦があって、そういったものを非常に価値があるものと捉えることができると思うんですが、解体物については、いろいろな意見があってオークションにかけるですとか大事なものは市が保有するですとか、いろいろな考え方があると思うんですけども、解体した金シャチはじめですね瓦等についてどういう扱いをしていくのかっていう今のところの方針を教えていただければと思うんですが。

渡辺主幹。

解体の時期につきましては、今の工程の予定ですけども、天守閣自体には31年の9月から現天守閣31年度の9月から現天守閣の取り壊しの方に入って行く予定でございます。

それですので、それからですけども取り壊し費用をしたいいわゆる出てきた材料といたしますか、そういったものについてまた今後どういった活用ができるのかといったことも少し少しちょっと期間もありますので、検討していきたいというふうに考えております。

手塚将之（減税・千種区）

お城は解体して金シャチはそのままおろすような形となると思うんですけども、広くですねそういったところで市民の方の意見も聞いてですね有効に活用していただければということをお願いして、私の方から終わります。

江上博之（共産・中川区）

石垣の問題についてお聞きをします。

基本設計と石垣との関連で、今基本設計の中で石垣能得に天守閣のお堀の部分の石垣調査の問題が出てきてると聞いておるんですが、どういう状態になっているのか、何が問題になっているのか、そこら辺いかがですか。

担当主幹。

今ご質問ございました、名古屋城の基礎調査で行っております。

そちらの堀の調査でございますけれども、先日石垣部会を開催させていただきました、その際にご指摘いたしたいただきましたけれども、一部の石垣が若干不安定性を欠いているというようなご指摘をいただきました。

それにつきましてはお城の堀の外側の石垣の外側の石垣でございますけれども、石垣の一番下にある根石が安定した基盤面ではなくて、その上の盛り土の上に乗っているというようなご指摘をいただきまして、その面で安定性を欠き、欠いているのではないかとというようなご指摘をいただきました。

江上博之（共産・中川区）

安定性を欠いているものを今後どうする。

それと基本設計との係わりね。

今回の石垣の調査というのは基本設計をつくるために石垣調査をされてると思うんですよ。調査をやってみたら、安定性に欠ける問題があったと。そうするとその安定性をかけるものは当然かけないように安定性を保たなあかんわけですから。

保存修復なりしなくちゃいけないということになると思うんですけども、その問題と基本設計との関係はどうなっていくんでしょうか。

蜂谷主幹。

今回石垣部会からご指摘いただきました石垣の安定性を欠いている部分というのは、内堀の外側の部分でありまして、天守台の石垣ではありませんでした。

したがいまして天守木造復元にかかる基本設計の部分については基本的に影響がないものと考えております。

江上博之（共産・中川区）

そこら辺は専門家の方もそう言って天守台の石垣とは直接は影響がないというふうに言ってるんですか。

蜂谷主管。

天守台の石垣につきましては、天守各部会の方でも石垣の専門家であり、石垣の地盤工学の専門家であります。

学識者の方から意見を伺いながら安定性等について今検討を進めているところでございますので、今回の石垣部会との指摘とは別のものと考えております

江上博之（共産・中川区）：そうすると今の木造復元の問題とは別だから、それはそれで直していくとか何かやらなくちゃいけないんでしょうけども、それはそれと、別々の話ですよってという理解で見えるということですか。

蜂谷主幹。

委員ご指摘のとおりでございます

江上博之（共産・中川区）

そうすると基本設定とのかかわりで、基本設計はこれ2月の予定でしたよね。

今回の問題も含めて基本設計はいつまでにできるのか、先ほどからあるエレベーター問題とかかわるわけですよ。

エレベーターのあるかないかによって基本設計をどうするかということもかかわってくるんじゃないかと思いますが、そこら辺の判断というのはどういうことなんでしょうか。

蜂谷主幹。

基本設計につきましては、石垣部会の指導をもとにですね、現地調査を再開したのが2月1日でございます。

再開に当たりまして、石垣部会の委員の方々と今後の石垣の進め方についてご協議させていただきまして、発掘調査について工程等再度見直したところ、2月末での管理は非常に難しいというふうに竹中工務店からも意見を伺いましたので、現在2月27日付で工期を3月いっぱいまで延長させていただいております。

江上博之（共産・中川区）

3月いっぱいまで可能だという判断なのか、今延ばすのは3月一杯しか無理だもんだから。そこら辺はいかがですか。

蜂谷主幹。

発掘調査につきましては3月末で完了することが可能と考えております。

また基本設計を取りまとめにつきましても、3月末で完了することが可能であるというふうに考えております

江上博之（共産・中川区）

取りまとめで先ほど言ったようなそのエレベーター問題っていうのは取りまとめと関わるいないんですか。あるなし関係なしにやっちゃえやっちゃおうということですか。

蜂谷主幹。

エレベーターをはじめとしました耐震補強であつたりだとか、消防関係の設備につきましては、あくまでも付加設備というふうに考えております。

今回の基本設計につきましては、天守を史実に忠実に復元した形で新たに設置を付加す

る設備について、別途二案を今考えて検討を進めているところです。

もし仮にですね、そういったものがつくことになったとしても、基本設計を取りまとめることについて支障はないと考えております。

江上博之（共産・中川区）

終わりましたじゃあ石垣でいえば新年度予算では天守台石垣調査というのが入っております。これは2億8700万という数字ですが、どんなことを予定されているんですか。

村木主幹。

新年度の石垣調査でございますけれども、具体的な史実調査、文書等調べる史実調査を通年で行います。

それから外部石垣の測量調査、現況調査、発掘調査、それから内部の穴蔵石垣の現況調査、測量、発掘調査を予定しております。

江上博之（共産・中川区）

今言われたような項目をですね、項目に費用がどのぐらい予定されているのか、そこら辺の資料をお願いしたいんですがいかがでしょうか。

村木主幹

それでは、一覧の資料とさとして提出させていただきます

江上博之（共産・中川区）

はいじゃあ委員続いて、今年度、入場者の予想を調査している途中だと思いますが、その調査の状況は今どうなっているんでしょうか。

館主幹

概要が出ておまして、入場者数の見込みあるいは収支計画等がおおむねきておるところでございます。

江上博之（共産・中川区）

今口頭で聞いても大抵数字ですから頭に入らないので、資料でいただいた上で議論をした方がいいかなと思いますので。

今言われた概要をですね、資料としてお願いしたいんですがいかがでしょうか。

館主幹

それでは現在ですね6月の補正予算で認めていきまして、9月過ぎから始めました。

収支計画入場者見込み等調査の概要といたしまして、入場者数見込みあるいは総収支計

画。経済波及効果、そういったものにつきまして、概要として出させていただきます。

江上博之（共産・中川区）

それで入場者の問題は要は 366 万 50 年近くと言うところの問題等絡むわけで、入場料がねどうなのかということちょっと私なりにちょっと勉強したら公立博物館の場合ですよ、公立博物館の場合は入場料をね取っていけないと。

この博物館法ってのがあって、これは第 23 条ですけども、公立博物館は入場料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならないと。

ただし博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

だいたい皆さんは、名古屋城博物館じゃありませんよと言われるんでこの法律には該当しませんよと言われる可能性があるんで先に言っときますけども、皆さんにとっても現博物館は、現天守閣はね。

博物館を機能を有する、同等程度のものだって言うわけで、そういう意味では今の入場料というのが博物館法に基づいて徴収してるんじゃないかと思いますが、そういうものではないんですか。

名古屋城総合事務所管理加藤課長。

ただいまのご質問につきましては、名古屋城の今団体割引は別といたしまして 500 円を大人の方ですといただいておりますけどもこれの根拠につきましては、都市公園条例で定められた使用料といたしまして 1 人 1 回 500 円ということでお支払いいただきまして城内の観覧をしていただいておりますところでございまして、この使用料は有料公園施設である名古屋城へお入りいただくための料金でございまして、特定の建物に入るためだけの料金ではないというところでございます。

江上博之（共産・中川区）

そうすると今度木造復元しようとするときの入場料っていうのはね、建設費用に回すわけですよ。75%か 80%と言う数字が出ておったと思うんですけども。そういった場合も今の理屈と同じ根拠でやるということなんですか。

館主幹。

原則、今議員ご指摘のとおり、現在の考え方を踏襲する予定でございます。

江上博之（共産・中川区）

言ってみれば木造復元したものは博物館ではないとあくまで公園設備の一部だということを行っているというふうで理解するしかないですね。

次にいきます。

次にですね、学芸員の体制どうするのかということも、これ注目されてるとこなんですけども、現在の学芸員の体制に加えて、新年度、そして将来的にはどういう形でどんなことをする学芸員を用意しようとしてるんでしょうか。

あくまで天守閣にかかわることで結構ですよ。

村木主幹。

学芸員でございますけれども、現在主観が1人しており、それから名古屋全体で3名の学芸員がおりますけれども、新年度につきまして、それと天守台の発掘調査を教育委員会から2人応援をいただいてやっておりますけれども、新年度につきましては、教育委員会から応援に来ていただいている2人分が名古屋城の正規職員として増員ということになります。

あわせて、来年度につきましては、学芸事務嘱託員を増員する予定としております。具体的には歴史文書を扱う歴史の学芸員事務嘱託員、それから考古学を扱うの嘱託員の増員を予定しております。

現在、2名のところ6名というふうに予定しておるところでございます。

江上博之（共産・中川区）

将来的にどうしたいとか、これこういうことをやるためにね。

これはやっぱりそうなんだというところだから予算上ではないけども、学芸員体制ということからいうと必要ではないかと思って見る部分あると思うんですよ。

熊本城が16人がいるとかね、金沢城が20名だとかいろいろあるわけで。

そういう点でどういう目標にしてみるのか、そこら辺のところをね、ちょっと資料でね元、から新年度、今の教育委員会からのがわかるような、今度は正規になりますよとか、今後こういうふうにしたいですというようなわかるものを資料でお願いしたいんですがいかがでしょうか。

村木主幹。

現在と来年度新年度の人数等がわかるものを資料で容易させていただきます。

将来計画につきましては現在のところのわかるところをまとめた資料とさせていただきますければと思いますはい。

浅井正仁（自民・中川区）

名古屋城の天守閣の入場規制なんですけども、入場規制をするに当たって、観光業界の人たちにはもちろん通知されたと思います。結構飲食、旅館の方たちが不安に思っるとするのは一つあると思うんですよ。

なんだかんだ言ってやっぱり名古屋城という一つの観光地がなくなると、本丸御殿ができるといってもやっぱり天守閣には勝てんのかなっていうのが僕の考えなんですけども。それで、5月7日に、閉鎖するというのは決まった話だと言われました。そもそもこれ調査しながら、金額というのは、天守閣というのは登れないんですか。

渡辺主幹。

今5月からの予定でございますけれども、穴蔵部分、地下部分の石垣についての調査をしていきたいとそうように考えていることです。

石垣の調査については一部も石垣の足元といいますか、そういったその部分のある一定のところを発掘していかなきゃならぬいけないだとか。

あとは一定の石垣をとり外してその石垣の裏部分を見ていくと、そういったこともやらなければいけないというふうに考えております。

そういった中で、地下1階部分の一部分を見ていくといったことでかなりの作業エリアとか作業のスペース、安全性の確保といったことからすると、なかなか地下1階部分で小天守、大天守あわせですけれども、なかなかスペースが確保できない。

ではないかと。

それと考えているところでございます。

浅井正仁（自民・中川区）

そしたら図面でどこのね小天守入口ここが閉鎖になるからっていう絵をちょっと資料要求したいんですけど。

渡辺主幹

今の今の調査、についての想定といったところでは出てくるかとは思いますが、今の現状でわかる範囲のところ図面の方をさせていただきたいと思えます。

浅井正仁（自民・中川区）

それと5月7日以降のスケジュールですよね。5月7日に閉鎖して文化庁の許可取ったり、それからエレベーター取り壊しだとか、完成するまでのスケジュールちょっと出していただきたいと思えます。それとですねよろしいですか。資料要求はい。

渡辺主幹。

主な項目につきまして一覧表にさせていただいてお出しさせていただきたいと思えます。

浅井正仁（自民・中川区）

それとですね5月7日の閉鎖の後、名古屋城へ来る。来場者。見込みですよね予定。

出していただきたいと思います。閉鎖した年、それから例えばなんだ。年度内で其の他素屋根見学か。があるとどれぐらいに戻るだとか、そういったものってあります。

館主幹。

先ほど江上議員からご要求がありました。今回ですね民間の調査会社の方に全体の入場者数を見込んでいただいておりますので、その中で説明できれいさせていきたいと思えます。よろしく申し上げます。

委員長浅井委員浅井正仁（自民・中川区）

それとついでに姫路ですよね。姫路がどれぐらい減ったのか、数字で出していただければ。来場者数

館主幹

今年度につきましては1月末まで、お伺いしておりますので、作ったときに180万で昨年度210万程ありますが、これにつきましては1月末までの数字という形で出させていただきますと思いますが、

浅井正仁（自民・中川区）

閉鎖中。

館主幹

失礼しました改修中あのださせていただきますよ最初はすいません。